



会からのお知らせ

○ 6月度定例役員会

日 時 6月2日(土) 13:30～16:00
場 所 ふるさと歴史館 研修室
役員会の前にニュース等の封入作業があります。(13時にお集まりください)
会員の皆さんはどなたでも出席できます。是非お出でください。

○ 他稲門会等への出席

2007年稲門祭第1回実行委員会 4月19日(木) 小野講堂
風間副会長・當間副会長・小亀事務局長出席
調布稲門会第26回総会 5月19日(土) 調布市文化会館
三宅会長他1名 出席
西東京稲門会第7回総会 5月20日(日) 東伏見校舎
三宅会長 小野幹事出席

○ 6月度お誕生会

日 時 6月2日(土) 17:00～19:00
場 所 割烹 丸藤 (久米川駅南口 徒歩1分)

* 6月お誕生の方々(敬称 略)

伊川浩生・市川彰彦・井原徹・上素子・大内一男・小川靖郎・風間和夫・重原眞知子
田口政澄・津野慶浩・當摩照夫・野村茂樹・北条進・細渕昌・安田忠治・吉本正典

(16名)

○ 第52回東村山雑学講座

日 時 7月7日(土) 15:00～16:30

場 所 未定

講 師 原田 道昭氏(会員・昭53理院)

演 題 石炭・中国・そして南極

石炭は過去のものではありません。世界、日本、中国の石炭エネルギー事情とともに、27年前の第20次南極観測隊参加の経験と、最近の南極映像をお届けします。

【2007年稲門祭について】

2007年稲門祭は同封の案内書通り10月20日・21日に行われます。

福引き券のご購入に是非ともご協力頂きますようお願い申し上げます。

なお、福引き券は主として前売りとなっております(当日は希望の記念品が完売し、品切れとなる場合があります)。ご協力頂ける方は事前に事務局小亀(394-6951)までご連絡の上6月2日午後1時に役員会会場(ふるさと歴史館研修室)まで購入代金をご持参願います。

(福引き券は1枚2,000円です)

【地ビール早稲田の販売について】

同封の案内書の通り早稲田大学周辺商店連合会より地ビール販売の案内が来ましたので、ご希望の方はお申し込みください。

【東村山稲門会の歌・カセットテープ配布について】

東村山稲門会設立10周年を記念して作りました「東村山稲門会の歌」のカセットテープを本日皆様にお届けいたします。このテープは副会長の當摩彰子さんと照夫さんご夫妻のご好意により制作頂きました。また作曲者のボニー・ジャックス西脇代表のご了解も得ています。大変素晴らしい歌ですので是非お聴きになり皆さん歌えるようにして頂ければ嬉しく思います。なお、同封の稲門会の歌の楽譜は幹事の**高橋文子**さんがカセットの歌から音符に落として作成して頂いたものです。

また、10周年記念事業基金にご寄付を頂いた方で、当日のコンサートにご出席されなかった方々（26名）には、當摩照夫さんに制作して頂いた当日のコンサートを録音したCD（2枚組）を併せてお届けいたしますので、是非お聴きください。

今後とも会員皆様とともに楽しい稲門会を作っていきたいと思いますのでご協力の程よろしくお願いいたします。

（事務局長 小亀輝雄）

「あなたが主役団塊世代は何が出来る/何がしたいフリートーク」の場に参加

東村山市（政策室企画政策課）より東村山稲門会に退職世代の方々が地域への関心を深め様々に活躍していただくために『フリートーク・大人たちのしゃべり場「あなたが主役ー団塊世代は何が出来る？何がしたい！？」』を先日3月24日（土）午後市民センターで開催の案内があり、当会より幹事の**高部素行**（35理工）氏にご参加をお願い致しました。

以下その報告感想です。

（三宅良太）

主催は市民ボランティアグループ「懇団塊」ですが、市の企画政策課が事務局になっています。40名弱の参加でした。団塊世代はほとんどいなくて、団塊より年上の人のトークとボランティアグループの売り込みに終始しました。当会からは岡田会計幹事と高部が参加し、岡田さんから「空掘り川に清流を取り戻す会」への参加経緯と意義を話され、高部からは市報などで参加を募る集まりの広報の工夫を求めました。12月に行なわれた団塊世代へのアンケートの説明を中心にした多少の意見聴取のほか、シングルマザーのグループが年寄りにベビーシッターを手伝ってほしいとか、既設グループからの勧誘などがあり、2時間半余りまとまった話になりませんでした。それでも企画政策課は事前の予定稿らしく、団塊世代向けに市としての新しい組織案を提示して終わりました。どうも、企画政策課に寄せられた気がしました。これから増える団塊退職者への窓口サービスは必要かもしれません。が、その分どこを合理化して市組織の膨張を抑えるかの企画政策もセットで聞きたかったところですが聞きそびれました。

（高部素行）

ビールファン、垂涎の聖地「ブリックスケラー」を訪ねて

山下邦康（前会長）



「ちょっとコーヒー飲みにワシントンまで」と妻にうそぶきながら2月末出かけた。現地での所用もあらかた終えて身軽になったある日、一度は行って見たかったビールファンの聖地として名高い店「ブリックスケラー」を訪れた。アメリカ国内のビールだけで180種、輸入ものがなんと約700種取り揃えてあり、いつでも客の注文にそえるようにしてある。アサヒスーパードライ、キリン一番はむろんサッポロエビスビールまでびん、缶、容量別に完備と徹底している。地元のビールファンはもちろんだが、ワシントン滞在の外国の外交官や要人もしばし故郷のビールの味を慕って訪れるらしい。

その日は、連日続いてきた素晴らしいワシントン・ブルーの穏やかな陽気が一転して朝からみぞれ交じりの寒い日、午後からは大粒の雪で視界もままならぬありさま。出かける夕方には20センチほどの雪が積もって道ゆく人もなく、街全体がシンシシと静かに凍りついたようだ。はたしてこんな日に店はオープンしているかなと心配であったが、幸い滞在のマリオットホテルから近そうなので意を決して出向くことにした。雪道に足をとられながらやっと店に着いた。古い建物ながら瀟洒な佇まい、中に入ると何処かの蒸留所か穴倉のような趣向がしてある。店内の壁面は古いレンガで囲まれ、上段の棚に色とりどりの世界のビール缶（空き缶？）が並べてあった。その数、とても数えきれません。普段は酔客でテンヤワンヤの店らしいが、さすが今夜は4、5組総勢10名ほどの客が静かに食事をしていた。私はチーフに「アメリカンで少し苦みのやつがイイ」などとワケ知り顔で注文したものだ。せっかくだから食事も済ませようと、アメリカンステーキの小ぶりなやつに表面をゴマで包んで焼き上げたデッシュを注文した。チーフが懸命にすすめただけあって中々の味だ。それに店オリジナルというマスタードのきいたソースがよい、それをほんの少し垂らす。外は雪が止んでいた。ビールで赤くほてった顔を冷気にさらしながら無事ホテルにもどった。

4月度「お誕生会」報告

HAPPY
BIRTHDAY

担当幹事 芦田 均 393-7525

4月7日（土）定刻より15分遅れの17時15分に、お誕生者6名をはじめとした計20名で開催、三宅会長のご挨拶、風間副会長の開会の辞及び内藤幹事の乾杯の音頭に絡んでの挨拶で、心のこもったお祝いと歓迎の言葉を「お誕生者」に頂いた。今回は、まずはアルコールを少々入れて懇談に入り、程なくしてお誕生者の自己紹介、次いで僭越ながらご出席の役員を幹事（芦田）が紹介、三宅会長の手から記念品を贈呈、滞りなく進んだ。

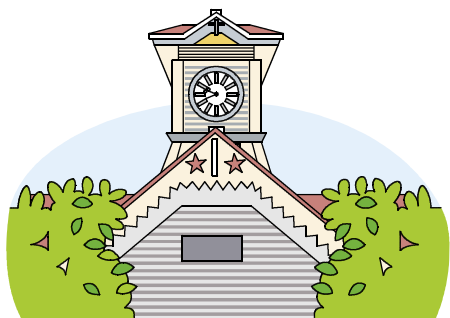
「平成16年に自然のよさに惹かれ、東村山に来て稲門会にすぐ入会、現在、仕事ですが、そのうち稲門会のお手伝いをしたい」と石井久長様。小菅宏様は、お母様の面倒を見ておられる一方、テニス、園芸でストレスを解消をされている、との事。「明日が71歳。とは言え、これからも旅行をしたり自由闊達に生きて行きたい」とお見かけどおり、元気な土橋雄次様。中村皓一様は趣味として囲碁をなさり、両国のご出身。中学の先輩で同じ誕生月の久世様の欠席を残念がっておられた。74歳になられた額田伊久夫さんは「どん尻倶楽部」と揶揄、尋常小学校、国民学校、旧制中学の「最後」の卒業生で、雑学？を種々ご披露頂いた。また、紅一点、カラオケ同好会にも積極的に参加されている高橋文子さんは、お子様が反抗期との事でそのご苦労話、ご主人との馴れ初め及び音楽学校を志望されたほどの音楽好きで音楽にちなんでの話を頂いた。

井垣様ご指導の校歌、市稲門会の歌、小亀事務局長の閉会の言葉で無事終了した。

ご出席の皆さん、お疲れ様でした。

北国を想う

田口政澄 (S 3 6 理工)



サラリーマンに転勤はつきものです。ご多聞にもれず私も大阪、札幌、名古屋、札幌と4回転勤をしました。札幌は出身地でもないのに2回行くのは珍しいと思いますし、この為社内外みんな私が北海道の出身と思っていたようです。でも通算し11年も住んでいますと第2の故郷のようになりさまざまな思い出、懐かしいことがあります。そんな中のひとつですが18年前の秋、わたし

達は景気低迷しつつある北海道を活性化するために「世界の中の日本、日本の中の北海道」「北海道をオホーツクから考える」と題し、地元及び北海道内の各界有識者約40名の方々に集まいただき、網走市内のホテルでフォーラムを開催しました。オホーツク地域は農業、漁業、林業とあらゆる一次産業が全部そろっており、またここでは常に北を意識せざるを得ないので北海道、日本を考えるには格好の場所だったのです。

フォーラムは初日金曜日の午後、産業界、学界の見識ある2氏の基調講演で始まり、これを受けて4つの分科会に分かれそれぞれのチームで議論した結果を翌土曜日の全体会議で発表し、さらに全員で総合討論をおこなったうえでまとめるように企画していました。会議は厳しい北海道の現状分析にはじまり地域特有の問題提起、提言、喧々諤々の議論が続きました。

初日の議論を終えた後、ホテルでのディナーと懇親会には北海道知事も参加されおおいに盛り上がりましたが、懇親会の後まだ何か物足りないメンバーの人と数人で網走の夜の飲食店街にラーメンを食べに出かけました。その時入ったお店のママさんが垢抜けしたすごく綺麗な人だったので一同びっくり、ここのラーメンは美味しいなーといいながら、みんな昼の堅い議論に疲れたせいかママへの質問、ママとの議論になりました。夜も更けいろいろ話しているうちに分かりました。実はママは5、6年前に刑を受けに来た彼を追っかけここ網走に来てこのお店をはじめて彼の出所を待っているのです。

フォーラムのテーマは結論の出るものではありませんが、翌日の総合討論では、内なる改革、内なる教育、北海道人としての発想、女性に魅力的な地域の創造、死に物狂いでやる実行力等の意見が多く出ていました。

それから数年後、家内と道東地区を旅行する機会があり、早速網走の町を訪れました。新しい建物が増え町は綺麗になっていましたが、あのラーメン屋はありませんでした。その時のメンバーのひとりと今年賀状の交換が続いています。今年もその方の賀状を拝見すると、またあの時熱く語っていた地元の方々の顔が浮かび、あのラーメン屋のママさんは出所した彼と何処かで幸せになっているのだろうかと思いはめぐり、今も強く魅かれるオホーツクです。

私のヒマラヤ紀行

高橋正夫記 (S35政経)

昨今の中高年登山ブームは遠くヒマラヤの地にも及んで、いまや日本人シニアの列とも聞いていたので、いささか二の足を踏んでいたのが、一昨年の暮れにネパール旅行に参加して、荘厳な山並みにすっかり魂を奪われ、それから何とか8000m峰を真近に眺めたいと思い続けていました。それで現地のエージェントにコンタクトし、この3月に友人とふたりで勇躍エベレスト街道のトレッキングコースに向かいました。ところが成田で、同年代のかつての会社の同僚グループ5人と偶然で出くわし、なんだ君たちもかということになって、いささか鼻白む思い。相手はヒマラヤ5回目で、しかもわれわれと同じコースをやるというので、お互いなるべく一緒にならないように言い交わしたものの、トレッキングでは何回も出会ってがっかりすることになりました。



今回の課題は高山病対策で、昨年稲門会の守屋氏と中国九寨溝に行った際に黄龍の3600mの登りで酸素ボンベの厄介になった経験から、4000mを越す今回のコースは自信がもてませんでした。結果的には常にビスタリ、ビスタリ(ネパール語でゆっくり、ゆっくり)のペースと十分な水分補強で、頭痛もなくあまり問題はありませんでした。現地ガイドとポーター、キッチンボーイ付きだったので、重い荷物を背負うこともなく、3000m以上での一日の高度差600mは苦しいながらも、予定とおりのスケジュールで行くことができました。首都のカトマンズから登山基地のルクラまでは7人乗りの小型機ではいますが、ルクラの滑走路が山に向かって登り斜面というのは他に例がないとおもいます。ここから往復7泊ロジ泊まり、そしてスタートから氷雪をまとった壮大華麗な山々の連続は息もつかせず、3000mもの絶壁がいきなり氷河に落ち込むなどその圧倒

的な迫力は写真では表現不可能です。昨年夏はスイス・オーストリアアルプスのトレッキングに行って感激したのですが、そのスケールの大きさは比べるもなく、また5000m台の山々も素晴らしい山容なのに名前がついていません。このコースの目的であるエベレストはさすが世界最高峰だけあって王者の風格ですが、山の形としてはそれより低い6~7000m台の名峰を直下から見上げて、より心奪われました。見上げれば天上世界、至福の時、しかし前後をみれば次から次へとトレッカーたち、そのなかでも日本人の中高年が多いことに改めておどろきました。とくに女性の比率は間違いなく6割、蟻の歩みのわれわれをいとも簡単に追い抜いて行きます。また会社を辞めて単独でガイドを雇って来ていた若い女性がいました。アイゼンが必要というとなんてですか？まったく怖いもの知らずの無鉄砲な人もいます。今回は4000m地点までだったので次回はベースキャンプの5600m地点まで挑戦したいといったら、苦楽を共にした相棒は冷たく、私は行かない、いくらひとりで行ってと突き放されました。素晴らしい体験をしたのにどうも人生観は違うようです。でもヒマラヤの魅力には抗しがたく、次回国花の石楠花の咲くやさしいコースでまた来たいとおもっています。もともとそろそろ体力の限界に来ていることは事実なので意気だけになるかもしれませんが。ひとつだけ残念なことです、いまやヒマラヤはごみの山です。エベレストでも一番多いのが日本語の廃棄物ということですが、トレッキングでもその懸念がありました。今の日本人は心を失っているといわれるのうなずけるところがあります。



早稲田ラグビーと私

伊川浩生（S 5 3 文）

皆さんこんにちは、昭和 5 3 年第一文学部卒業の伊川と申します。東村山稲門会には 1 0 年前の結成の直前、少しだけ関わらせていただいて以来すっかりご無沙汰してしまって、申し訳なく思っております。今回突然の原稿依頼も、サボってるヤツにお仕置き、なんて感じでしょうか（笑）。

さて、私が早稲田大学と関わったのは高校生の時、ラグビーを通してです。当時私は弱小高校のラグビー部に在籍していて、身体が大きければフォワード、それ以外はバックスというように振り分けられて、その当時ヤセポチだったので、センターというバックスのポジションをやらされていましたので、「華麗なバックスのワセダ」を応援するようになりました。高校生の時の受験の憧れ大学は別でしたが、大学選手権でその大学と早稲田が当たった時も早稲田を応援していました。その後、たまたま早稲田に進学したことで、依頼ずっと早稲田ラグビーを「熱烈に」応援しています。ただし、入学時は早稲田のスクールカラーなど興味もなく、早稲田のジャージを知らないままだったので、1 年生の時に友人と一緒に他大学の女の子 3 名を連れて早慶戦に行ったとき、前半は慶応のタイガージャージを応援してしまう失態を演じてしまいました。出身高校のジャージがたまたまタイガージャージだったんです。そのジャージが飛び出してきた瞬間にそちらに気持ちを重ねてしまったんでしょうね。私と友人の間に座った女の子たちは 2 人が別々のチームを応援しているので、どっちと一緒に応援していいか困ったそうです。ハーフタイムに指摘されてはじめて早稲田がアカクロジャージだということを知りました。いい思い出です。

私が在籍していたころは、早稲田が 1 3 年連続で大学選手権決勝進出するなど黄金期でした。植山、藤原、星野などバックスのスターがそろっていました（星野の息子さんが今早稲田のラグビー部にいます）。明治には松尾雄治などがいた時代です。その後 5 年ほどの低迷期のあと、本城が入り早稲田ラグビー人気は頂点を迎え、早明戦は立ち見を含めて 6 万 7 千人が入場するというその後破られていない国立競技場の入場者記録を打ち立てました。

その後また低迷、そして復活した清宮主将、堀越主将のころを最後にまた長い低迷期を我々早稲田ラグビーファンはじっと耐えていたのです。そして 2 0 0 0 年春、そこに現れたのが清宮監督でした。その後の 5 年間の華々しい早稲田ラグビーの活躍はご存知のとおりです。2 0 0 0 年度はそれ以前に低迷していたチームを建て直し、早明戦で劇的逆転勝利し関東ラグビー対抗戦グループで優勝、大学選手権でも決勝まで行きました。続く 2 0 0 1 年度は大学選手権で 1 3 年ぶりに優勝し、多くの早稲田ファンが感涙に咽んだものです。

早稲田ラグビーの躍進振りとなっていて、ネット社会も成熟し、我々オヤジ世代にとっても身近な存在となり、ラグビー部の HP や各種応援掲示板など、ファンにとっては欠かせない応援ツールとなっています。

そんなころ応援ネット掲示板で知り合った方に早稲田ラグビーファンのメーリングリストグループに入れていただき、毎日色々熱心なメールのやり取りを楽しんでいます。そのメンバーは主に中高年の早稲田卒のオヤジ連ですが、中には歯医者さん、早稲田の試合をみてファンになった他大学出身の女性、極めつけは慶応出身のオヤジなど、他大学出身の方々もいます。そんな方々と充実した早稲田ラグビーファン生活を送っています

皆さんも是非、早稲田ラグビーを応援しましょう。今年も熱い試合が観られると思います。

同好会だより

旅行同好会

世話人 風間和夫 TEL 394-5279
小亀輝雄 394-6951



いよいよ旅行会(5月17日(木)～18日(金))が近づいて来ました。お手許の案内書をご確認の上、時間厳守にてご参集ください。Wの小旗を目印にどうぞ。

なお、当日のバスはプレートナンバー「多摩200か271」です。また前回の案内書に標高2500メートルと記しましたが1500メートルの間違いでした。

皆様のお力により当日が良い天気にも恵まれますよう!!

ゴルフ同好会

世話人 堀田秀夫 090-8339-7179



@第一回(第21回)会長杯ゴルフコンペの報告

今年度第一回の大会は、4月17日三宅会長以下16名の参加のもと狭山カントリークラブで行われました。心配しておりました天候も回復し、皆様楽しく健闘されました結果、

優勝は長老の内藤様、準優勝・相馬様、三位・堀田となりました。皆様上手下手関係なく、健康であるからゴルフができるとのモットーのもと、老いも若きも、多数の方々の参加をお待ちしておりますと、申されておりました。

次回

第二回会長杯(第22回)ゴルフコンペは、9月9日(日)西武園ゴルフ、6組で行います。奥様、ご子息の参加大いに歓迎でありますので、賑々しくゴルフを楽しみたいと存じます。早いようですが、参加を予定されておられます方、下記までご連絡ください。

堀田 090-8339-7179

ウォーキングの会

世話人 高橋正夫 TEL 309-3407
土橋雄次 393-5708

「奥多摩むかしみち」をたどるウォーキングを下記の要領で行いますので奮ってご参加ください。バスで奥多摩湖まで上がり、奥多摩駅まではゆるい下り道です。小雨の場合は決行、雨天のときは翌27日。

1) 集合日時: 5月26日(土) 午前8時55分(時間厳守)
9時05分出発

2) 集合場所: 西武線小川駅、拝島方面行きホーム中程

3) 行程: 奥多摩駅(10:24着)よりバスで奥多摩湖下車

一水と緑のふれあい館—浅間神社—しだくら橋—白髭神社—
桧村橋—小河内線廃線跡—奥多摩駅

約10km 3時間50分

奥多摩駅3時～3時半ごろの予定

参加費無料、但し交通費(奥多摩バス代340円含む)、昼食
飲み物各自負担。

小雨の場合は当日朝8時までに高橋または土橋にTELで確認してください。



カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



4月例会は4月7日に開催。
メンバーは芦田、赤荻、井垣、高橋、高部、高鷲、夏山、内藤の各氏8名

春爛漫の一夜各自の持ち歌を思う存分歌い上げ、楽しいひと時を過ごしました。大きな声を出して歌うことは、ストレスの解消、健康増進にも役立ちます。どうぞ気楽に参加され仲間と楽しく過ごしましょう。

今後の予定

5月12日(土) カラオケランド ズー 19:20 より

6月 2日(土) カラオケランド ズー 19:20 より

園芸の会

世話人 當摩 照夫・彰子 TEL 396-3033



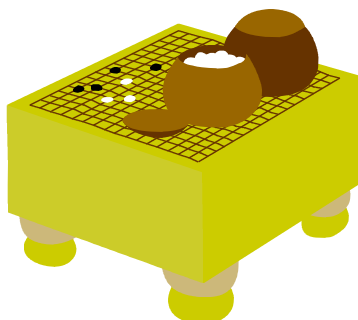
恒例のさくら草の鑑賞会が好天に恵まれた4月12日、20名近くの多くの参加者を得て、當摩の自宅で賑やかに、楽しく行われました。各自が美しく咲き誇った自慢のさくら草を持ち寄り、どれも見事な出来映えでしたが、藤澤さんのご提案で人気投票を行いました。その結果、堂々の1位に當間ご夫妻、同率2位に木谷ご夫妻と高部さんの作品が選ばれました。以下、同率4位に土橋さん、木谷ご夫妻、6位に山下夫人の順となりました。また、藤澤夫人のお点前で、お茶が振る舞われ、皆で楽しいひとときを過ごすことができました。皆様、ありがとうございました。

次回の園芸の会は予定通り、5月11日(金)午後3時より、市民スポーツセンター、スポーツクラブ室において、春苗の交換会を行います。皆様、ふるってご参加ください。



囲碁同好会

世話人 野村 保夫 TEL 394-0417
高鷲 近 394-2336



●4月例会報告と6月例会のお知らせ○

●4月の例会は、4月14日(土)市民センター別館第6会議室で下記9名が参加して行われました。

一色、江藤、佐久間、佐野、鈴木、高鷲、野村、細淵、丸本
全勝は江藤、丸本の両氏でした。

○次回例会は6月16日(土)午後1時から、第6会議室で開催します。

●その一週間前、6月9日(土)には、第7回目となる「オール早稲田囲碁祭」が市ヶ谷の日本棋院で開催されます。今回は昨年より更に参加者が増え、300人規模となる予定です。当同好会からの参加メンバー等は次号でお知らせします。

テニス同好会

世話人 當 間 昭 治 TEL 391-6023



4月の例会は14日午前9時から久米川コートで実施予定でしたが、前夜からの雨でコートが使用できず残念ながら中止、ベストシーズンとなる5月は是非好天を期待したいものです。又メンバーが固定しておりますので、新人の参加を歓迎します。

5月と6月は下記を予定しています。

記
日時 5月20日(日) 午前11時～午後1時
6月 2日(土) 午前 9時～午前11時
場所 両日とも久米川コート3

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 高 杉 修 TEL 391-8447
井 垣 和 太 04-2924-2934

第31回「稲酔会」句会を4月28日(土)午後1時からふるさと歴史館研修室でおこないました。

参加者は、高杉風至、井垣稲雀、八木竜湖、幸田瑞雄、内藤慎、芦田火吐四、高部糸行計7名。投句参加は、大野恵峰、風間和夫、丸本北窓の3名。合計10名の50句を、互選、合評しました。

兼題「春眠」は、時期的にピッタリの季題でしたが、句にするのが難しく13句とやや低調でしたが、自由題近詠は春たけなわとあって

佳句が沢山寄せられ、楽しく充実した句会が繰り広げられました。

今回の特選には丸本北窓さんの

しぶきあげ雲に着水春の鴨 北窓

が選ばれました。

句会後は恒例により「丸藤」での懇親会。俳句に関するいろいろな知識、情報が得られる本当にためになる楽しい会合に、時の経つのを忘れるくらいでした。

次回は6月23日(土)午後1時から恩多ふれあいセンターでおこないます。

兼題は「梅雨」一切です。梅雨入り、梅雨晴れ、梅雨曇り、梅雨寒、梅雨の山、梅雨の蝶、梅雨の明け、等々うっとうしい梅雨を俳句を作ることによって明るく過ごしてください。

会員の皆さん是非楽しい稲酔会(早稲田に心酔する人達の集まり)にご参加ください。

(稲雀記)

音楽同好会

世話人 高橋文子 TEL 393-2676



日時：5月27日(日) 2:00～4:00ごろ

場所：恩多ふれあいセンター 集会室 (ピアノのある部屋)

持参するもの：各自上ばきを用意 (土足厳禁)

その他 当日歌う予定の曲の歌詞カードや
お手持ちの楽器

曲目：・東村山稲門会の歌 ・夏は来ぬ
・校歌 ・野ばら (ウエルナー)
・千の風になって ・おぼろ月夜
・みかんの花咲く丘 ・四季の歌
・あざみの歌 ・上を向いて歩こう 他

★歌詞カード等の準備の都合がありますので、参加予定の方は高橋(文)までご連絡ください。 TEL 393-2676 (FAXも) リクエスト曲も受けつけます。

東村山稲門会設立10周年に思う

小林俊治 (S53 社会学)

昨年11月に行われた東村山稲門会設立10周年記念事業「ボニージャックスと歌おう」の開催にあたり、久しぶりに稲門会のお手伝いをさせていただいた。多くの校友や市民の方たちを集め、成功裏に事業を終了したが、もう10年経ったのかと感慨深げに舞台の袖でその光景を眺めました。

私が稲門会と始めて関わったのは、12年程前、東村山に稲門会を作る計画があるという話を、当時東村山市役所の職員だった水野氏から聞き、そのお手伝いをさせてもらった事に始まります。西武園ゆうえんち内のモンヴェールに、当時の奥島総長をお迎えし、多くの校友とともに設立準備のパーティーを盛大に開催し、設立に向けその一步を踏み出しました。

その当時、水野氏らと一杯飲みながら「校友の仲良しクラブだけではなく、将来的には稲門会が持つ政治・経済・文化など多くの資源を広く東村山市民に対し発信できるような団体にしたい。」などと夢を語ったものでした。

その後、公私共に忙しくなり、稲門会には総会に参加する程度でほとんどお手伝いできない状況でしたが、大西元会長、山下前会長、三宅会長を始めとする歴代役員の皆様のご努力により、その当時の夢物語が雑学講座に代表されるように着実に具現化され、嬉しく思っています。特に10周年記念事業では稲門会パワーの威力をまさに実感しました。生涯学習社会となった現在、このパワーをさらに広げるとともに、東村山市民にとって稲門会がかけがえのない団体となるよう期待しています。

10周年記念事業に参加し、私にとっても、稲門会が貴重な存在であることをあらためて認識しました。無芸大食の私ではありますが、時間を見つけ、雑学講座に参加したり、趣味の船釣りで同好の士が居られれば、サークルなどでお手伝いできれば、などと考える今日この頃です。



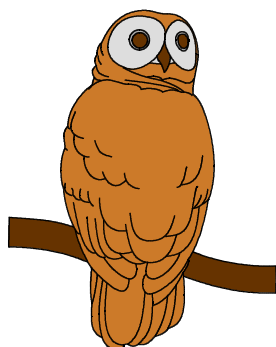
俳 壇

春眠や砂嵐にも余裕あり 香の微か自分のために咲く桜	八木 竜湖	切取りし空間すべて春の色	丸本 北窓	春眠を破り過ぎ去る救急車 兄の忌に縁者集いし春時雨	内藤 慎	日柄良し酒さかなあり山笑ふ	高部 糸行	蝶にのみ聞ゆる舞曲ありぬべし 振り逃げにあがる歓声柳絮とぶ	高杉 風至	六百年支えし樹根若芽伸ぶ つつじ咲く庭の日向に猫眠る	幸田 瑞雄	テノールもバリトンもいる猫の恋 窓開けて朧の月を招きおり	風間 和夫	異国語の心地良きかな目借時 筍を母に習ひし味に煮る	大野 恵峰	桜にも連帯責任ありそうな 春昼や我を残して電車発つ	井垣 稲雀
------------------------------	-------	--------------	-------	------------------------------	------	---------------	-------	----------------------------------	-------	-------------------------------	-------	---------------------------------	-------	------------------------------	-------	------------------------------	-------

多摩湖ふくろう通信 No 62

2007. 4. 1

戸田 志郎



小泉政権は自衛隊発足以来はじめて戦地となっている他国の地上に自衛隊が展開する海外派兵を強行した。しかし憲法に手をつけずに派兵を行ったため、武力行使ができず、肝心の軍事的貢献ができなかった。

アメリカブッシュ政権は、イラクにおける泥沼化の中、国の内外からの孤立化を深めており、日本に対して憲法改正して、集団的自衛権を認めて、軍事的な派兵をという圧力を強めている。また、「冷戦」期に大規模な基地を東側陣営との境に集中的に配置していたものを、朝鮮半島からアフリカの角（ソマリア半島）にいたるいわゆる「不安定の弧」の秩序を維持し、「ならず者国家」に対し迅速に対処できる新しい「米軍の再編」をめざしている。

日本経団連も経済のグローバリゼーションの進行のなかで、はじめて憲法9条の「改正」を打ち出した。

「戦争を知らない子供たち」世代の安倍首相は、鳩山一郎首相以来50年ぶりに「自分の任期中に改憲を実行する」という公約を掲げ、支持率低下も何するものぞと、教育基本法を改正し、防衛庁を防衛省に格上げした。そして今国会において9条改憲をねらう改憲手続き法案の成立をめざしている。

このような経過に直面し、平和と平等をあきらめないで頑張っている哲学者の高橋哲哉氏がある本の中で紹介していたフランク・パヴロフという人が書いた『茶色の朝』という本を思い出した。

ストーリーは単純で、語り手の《俺》という主人公が、友人とコーヒーを飲みながらおしゃべりするところからはじまっている。

「ペット特別措置法」というのが制定されて、最初は、茶色でない猫は全部処分するという。猫がこれ以上増えると危ないと科学者たちが言ったとか、茶色の猫は優生学的に優れているという思想があるとか。語り手の《俺》は白と黒のブチで雑種の飼猫を殺さなければいけない。とても胸が痛んだけど権威筋がそういつているのだからしょうがない、みんなもそうしているしと、《俺》は一応受け入れる。

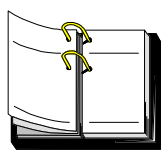
すると今度は、犬も茶色でなければいけないということになって、友人が飼っている犬が処分される。それを聞いて《俺》は、犬までもかと、驚いたけれど、それもまあしょうがない、べつに反対するほどのことでもない、茶色の犬や猫を飼えばいい、それだって可愛いのだからとその状況に順応した。

するとその後も次々と新たな事態が起きる。「ペット特別措置法」を批判している新聞が発禁処分になる。えっ、それはひどいなとおもうけれど、「茶色新報」という新聞だけはゆるされて、これはスポーツネタと競馬はちゃんと載っているから、まあそれでやっていけるだろうと《俺》は思って、さらに又状況に順応していく。

次は図書館から茶色以外の本が全部追放されていく。そういうひとつひとつの出来事にその都度驚いたり、胸が痛んだり、おかしいと思うけれど、結局はそれに適応して、その状況を受け入れれば自分は安泰なんだと、そこで《俺》は「茶色に守られた安心、それも悪くないな」と思う。

ところがある朝、今度は「ペット特別措置法」が過去にさかのぼって適用され、いま茶色の猫や犬を飼っていても以前にそれ以外の色を飼っていた人全員逮捕される、結果的には自分たちが逮捕されることになる。ある朝、《俺》の家のドアを叩く音がする、それが「茶色の朝」である。

茶色というのはもとナチスの征服の色からきていて、英語の「ブラウン」はナチスを連想させる色である。ここには、全体主義国家、ファシズム国家の恐ろしさが描かれている。



今月の予定（5月）

- 11日（金）園芸の会
- 12日（土）5月度役員会
雑学講座
お誕生会
カラオケ同好会
- 17日（木）～18日（金）旅行同好会
- 20日（日）テニス同好会
- 26日（土）ウォーキングの会
- 27日（日）音楽同好会

6月上旬の予定

- 2日（土）テニス同好会
6月度役員会
お誕生会
カラオケ同好会



編集局だより

編集局：當間、中村

○昨年11月からの新体制の中で、ニュース発行についての編集会議に参加しています。この5月からは場所を市役所いきいきプラザ1階とし、より良いニュース作りへと活発な意見交換を行っています。

○サラリーマン生活リタイヤー2年、まずは自治会活動からとその仲間に加わりました。加入世帯数665、毎月17日の定例会には多い時40名位が出席します。4月の総会を終え、最初の行事は5月27日の「美化デー」。早朝7時に神社に集合、5班に分かれて町内をクリーンアップします。親子での参加も多く、今年は100名程度を予定。回収したゴミは各家庭に持ち帰り、市の指定日に搬出します。気がつくのは相変わらず「タバコの吸殻」の多さ。歩きながらタバコを吸う人の8割方は、ポイ捨てをしている様な気がします。歩行喫煙が無くなれば、街は確実にきれいになる。私の持論です。

○今年は3月から4月にかけてある事に時間を取られ、「野菜の苗作り」がほとんど出来ず、夏野菜の収穫は期待薄です。作物は正直、手抜きをしたり時期を外したりすると、その結果はテキメンです。今は少しでも遅れを挽回すべく、連休中はほとんど畑で過ごしました。

（當間昭治）

○今月は意外な事が多かったのではないのでしょうか。届けられた封筒の中にはカセットテープが入っており、ニュースは12ページになっていた等々。皆様から寄せられた原稿がかなりの数になりましたので、思い切ってページを増やしました。投稿欄を充実させた特大号です。「東村山稲門会の歌」と併せて読み応え満点のニュースをお楽しみください。

○家の近くの多摩湖自転車道は「東京国際スリーデーマーチ」のコースになっています。たくさんのウォーカーを見かけました。当会にも「ウォーキングの会」がありますが、まだ参加しておりません。スポーツとは縁遠くなっている今の生活を少し反省しました。

○次号の原稿締め切りは5月23日です。よろしくお願いいたします。（中村真弓）